

バイオサイエンス事業

ニチレイバイオサイエンス
https://www.nichirei.co.jp/bio/



武永 正人
株式会社ニチレイ 執行役員
株式会社ニチレイバイオサイエンス 代表取締役社長

バイオテクノロジーを通じて、一人でも多くの方の心と身体の健康に貢献するために、お客様が求める新たな価値を提供します。

▶ **トップメッセージ**
私たちの事業領域では、市場の拡大と技術革新が継続しています。このような機会を捉えて、既存分野の競争力を強化するとともに、開発センターを活用したイノベーションの創出に取り組み、国内外での成長を進めていきます。

事業規模

- ・総資産(単体) 10,985百万円
- ・従業員数(単体) 98名
- ・主な拠点
グローバルイノベーションセンター(生産・研究開発拠点)、
Pathcom Systems Corporation(米国/カリフォルニア州)

バイオサイエンス事業の変遷

1980年代

畜産事業における副産物の販売を開始

- ・細胞培養に必要な牛胎児血清の輸入・販売
- ・美容に有効な牛胎盤エキス(プラセンタエキス)の製造・販売

1990年～

事業拡大を展開

- ・細胞培養に用いられる培地を輸入販売(バイオ医薬品原料事業)
- ・アセロラを活用したエキス・パウダーの販売(機能性素材事業)
- ・培養細胞から作られる抗体を活用した診断薬の開発・製造・販売(分子診断薬事業、迅速診断薬事業)
- ・米国の医療機器会社を買収

売上高の構成

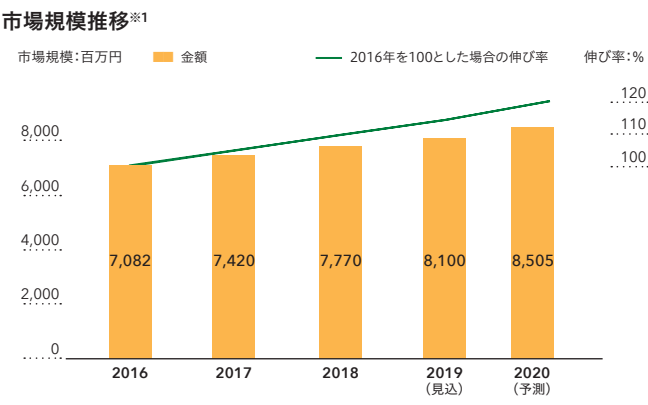
現中計の施策と進捗

主な施策	進捗
・次世代の診断薬・診断装置の開発、製品化の推進	・遺伝子やたんぱく質を検査する技術を活用したがんや感染症の体外診断用医薬品の開発を推進
・海外事業の推進	・米国、欧州及び中国への医療機器の販売と、米国を中心に細胞培養用動物血清の販売を展開
・技術革新と変化するニーズをとらえたビジネスモデルの創出	・大学や企業との共同開発(オープンイノベーション)を通して、技術の融合による新たなビジネス構築を推進

バイオサイエンス事業の成長ドライバー ～分子診断薬～

強み	・がんの診断において、市場ニーズに対応した高品質な製品の開発・安定供給体制(コンパニオン診断薬) ・免疫染色技術による世界的にも数少ない医療機器の開発・生産が可能
顧客	病理検査を行う医療施設・研究開発を行う大学・製薬企業顧客
戦略	競争力のある染色装置と独自の免疫組織染色試薬・診断薬を国内・海外において拡販

【病理検査市場と国内シェア】(免疫染色用抗体・免疫染色装置)



国内シェア(2018年)※2

販社名	金額(百万円)	シェア
A社	3,125	40.2%
B社	2,240	28.8%
ニチレイバイオサイエンス	1,545	19.9%
C社	735	9.5%
D社	25	0.3%
その他	100	1.3%
合計	7,770	100%

※1・※2 出典：(株)富士経済「2019臨床検査市場 No.3」より当社にて加工

主な取り扱い製品

コンパニオン診断薬とは

バイオマーカーや遺伝子などを検査して、患者さんに適切な医薬品や治療法を選択することを可能にする体外診断用医薬品です。特定の医薬品の有効性や安全性の向上を目的に使用され、現在ではいくつかのコンパニオン診断薬が、がんの分子標的治療薬の投与判断に使用されています。

組織紹介



グローバルイノベーションセンター(埼玉県狭山市) 分子診断薬事業の従業員